

2024 年度（令和 6 年度）を振り返って

麦の穂乳幼児ホームかがやき

1. 「乳幼児総合支援センター」構想を実現する取り組みを強化します。

乳幼児総合支援センターの構想の 6 つの機能として、予防的支援機能、一時保護機能、専門養育機能、親子関係構築支援機能、アフターケア機能、センター拠点機能が挙げられています。今年度は予防的支援機能である妊産婦等生活援助事業の取り組みを開始し、東濃 5 圏域の市のこども家庭センター、児童相談所、教育委員会等に事業を周知し、連携・協働に力を入れてきました。また、親子関係構築支援機能では、入所児童と家族の再統合を目指してきめ細やかな面会交流やアセスメントを実施し、家庭復帰につながりました。

入所児童を丁寧に養育する従来の乳児院の機能に加えて、施設入所に至る前の在宅支援に重きを置く方向に制度・施策が変化しており、働く職員一人ひとりの意識改革に向けた周知・会議の在り方を模索した 1 年でした。今後は構想を実現していくための職員のスキルアップが課題となってきます。

2. 子ども一人ひとりの適切な養育環境の永続的保障をめざし取り組みを強化します。

措置入所の理由として、虐待と共に保護者の養育能力が乏しいとされるケースが増加している傾向が見受けられます。そのため保護者との関係構築が困難であったり、また、家庭復帰に向けての面会交流・支援の配慮事項も多岐にわたり、アセスメントと支援方針の確認の大切さを実感した 1 年でした。

つながりのある養育を実現させるために「ちょこっと会」を企画し、隣接する麦の穂学園の入所児童のライフストーリーワークについて児童養護施設の担当職員と情報を共有したり、かがやき心理職員がアタッチメントについて講話を行うなど、法人内で「子どもが大切にされたと感じられる養育」について考えるきっかけとなったのではないかと感じています。

3. 人材確保・人材育成・職員の定着に向けた取り組みを重視します。

妊産婦支援や育児支援など、地域の相談対応の業務が増える中で、相談員が支援センターからスーパーバイズを受けることで自信をつけたり、スキルアップをはかることができます。

また今年度は特に、学生に向けて「乳児院のお仕事」の小冊子・施設案内のパワーポイントの作成、Instagram の開設など取り組みました。取り組むにあたり、リーダー職員や若い世代の職員を巻き込み、自身の仕事について外部に紹介・説明する機会を多く持つようにしたことで、少しずつ意識向上ができてつつあると感じます。

各部門の責任者が参集する「運営会議」で情報を共有し、また「リエゾン会議」や「主任・リーダー会議」では勤務の在り方、業務の効率化、記録の整理、広報の在り方などを協議し、はたらきやすい職場を目指して取り組みを始めました。職務を明確にし、今働いている職員のやりがい、チームの一員として大切にされることが実現できるよう、引き続き魅力ある職場づくりに取り組んでいきます。